

第1回かわさきコンパクト委員会 議事録

日 時：2016年6月8日（水）9時30分～11時

場 所：川崎市役所第3庁舎18階 第1会議室

出席者：〔委員〕小倉、庄司、末吉、鈴木、瀧田

〔川崎市〕環境局 小林、地球環境推進室 齋藤、井田、内田、加賀谷

〔事務局〕株式会社ダイナックス都市環境研究所 佐久間、北本、谷口

1 開会

開会に先立ち、「市内でかわさきコンパクト（以下、「KC」とする。）の精神を普及していくことが重要である。市議会においても、熊本への支援や、ヘイトスピーチ対策など、人のあるべき姿について議論をすることになる。市内の事業者や市民と一緒に、世界をリードする川崎市を考えていくことが重要である。KCが10年を迎える区切りの年で、新しいステップを進めていくためのご議論をいただきたい。」というあいさつがあった。

2 議題

(1) 委員長及び副委員長の選出について

事務局株式会社ダイナックス都市環境研究所（以下、「事務局」とする。）によって、委員会の設置要項が読み上げられ、委員長と副委員長の選出を行った。委員長に庄司委員、副委員長に瀧田委員が推薦を受け、満場一致で承認された。

以降の議事は、庄司委員長が進行した。

(2) かわさきコンパクトの活性化に向けた取組について

市から、資料2-1、資料2-2及び資料2-3をもとに、活性化に向けた取組について報告された。委員からは以下の意見があった。

- （委員長）参加事業者や団体が、基本的な情報を変更する際には、どの時点で確認を行うのか。
- （市）基本情報変更届の様式があるので、それを活用してもらおう。今年度の案内を出す際に、基本情報の変更があるかを確認する。
- （委員）退会の届け出はどのようにするのか。
- （市）自ら辞めた団体もこれまでにあったため、様式は用意する。KCの趣旨に沿わない場合に退会いただくこともあるので、そのための様式等も整理する。
- （委員）参加団体拡大に向け、新たな会員の発掘も大切である。市内では大企業・中小企業にかかわらず、障害者雇用に積極的に取り組んでいる企業も多い。事務局で労働・雇用や人権等の担当部門と接触し、働きかけをしてほしい。

- (委員長) 以前、障害者雇用先進的に取り組む事業者の方に、障害者雇用についてセミナーで話してもらったことがあるが、KCには加入いただいていないので、積極的に働きかけてほしい。
- (委員) KCをエントリー方式にしたので、加入してほしい団体をリストアップして積極的にこちらから呼びかけるほうがよい。近年、時折市内で嫌な事件が起き、川崎市のイメージが低下している。国内では人口が増加している数少ない自治体の1つとして、新しいイメージをつくっていくことに使えるのではないか。例えば、介護施設にメンバーになってもらうことが考えられる。DBJの「社会的価値・資本創出型M&Aアワード」で、川崎市内の医療法人で、市内の別の病院をM&Aし、より多くの緊急患者の受け入れ体制を整えた団体を表彰した。そのような、川崎市が必要とする事柄に取り組んでいる団体を、社会性があり、市民生活に直結するテーマまで視野を広げて探せるとよい。
- (市) 庁内の関係部署との連携もしてきた。環境局だけではアプローチが難しいので、庁内に協力を依頼していく。
- (委員長) 各局から事業者や団体を推薦してもらってもよい。
- (委員) 商工会議所では、月に3つほどのテーマでセミナーを開催している。その場で、KCの紹介と、参加団体の話ができてよいと思う。セミナーには50〜100名が参加しているので、そのような方々にPRできる機会となる。会員の中から数社は入るのではないかと思う。
- (委員) ライオンズクラブやロータリークラブには企業の社長が参加している。女性経営者の集まりであるソロプチミストや、青年会議所へアプローチしていくことで、よりきめ細かな情報発信ができると思う。
- (委員) 市民活動センターで年2回の「ごえんカフェ」と年1回の「ごえん楽市」を開催している。楽市にブースを出してもらったことはあるが、カフェには参加してもらったことがない。カフェは8月に開催するので、事務局は名刺とチラシを持って、参加してほしい。80団体くらいは来ると思う。
- (委員) コンパクトは、SDGsとの関係性は深い。川崎市としてどのように取り組むのか、議論を始めてもよいと思う。
- (市) SDGsはKCと親和性のある取組で、事業者としてはSDGsなくしては議論が進まなくなってくる。どのようなアプローチがあるのか、考えていきたい。
- (委員) 個人的に感じるのは、グローバルコンパクト(以下、「GC」とする。)の活動も盛んだが、世界の関心はSDGsに移ってきていると思う。KCが10年であるので、衣替えして、SDGs的なものに名称も含め、変えていくことも考えてもよい。
- (市) 同じような理念が乱立するとわかりにくいので、シンプルなメッセージとして伝えていくことが重要である。冊子を作成する際に、GCやSDGsといっても響かないため、「未来への約束」という副題を入れている。シンプルな言葉を使って市民へのアプローチをすることがよいと考えている。国際動向も見ながら、何

を旗印にすれば訴求力があるのかは、議論をいただきたい。

- ▶ (委員) 鹿児島では、薩摩の歴史的背景があり、社会的規律や封建制という文化が根付いているが、川崎にはそのような文化はあるか。よい言葉があれば、「コンパクト」よりもわかりやすい。文化的・社会的・伝統的価値観があればよい。
- ▶ (市) じっくりくる言葉があるかを探し、そういったものを旗印にするのもよい。
- ▶ (委員) 新しい川崎ブランドを売り出すための言葉をブランド戦略としてつくっている。そういった言葉をつけてそれと連動すれば、市民にとっても市外からもわかりやすい。
- ▶ (委員長) この議論は、概ね 2 年程度で見直すところがあるが、早めにも変わることもあり得ると思う。機会を設けて、意欲的なものができればよい。
- ▶ (委員) 外国人雇用を頑張っているところもある。大手企業でも中小企業でも、雇っているところがあるので、そのようなテーマも考えてほしい。

(3) 子どもへのアプローチについて

市から、資料 3 をもとに、子どもへのアプローチに向けた取組について報告された。委員からは以下の意見があった。

- ▶ (委員) 「未来への約束」ではなく、「未来からの約束」としてもよいと思う。過去の延長線上にある未来を考えるのではなく、どのような未来を望んでいるのかを逆算的に、バックキャストで考える必要がある。これからの未来は、過去の延長線上の成り行きベースではなく、強い意志や目標がなければならず、それが今強く要求されている。参加する子どもたちに、未来は自分たちの手の内側にあることを伝えるとともに、手の内に握れる子どもたちを育てていくような取組とするとよい。
- ▶ (市) 協力いただく企業は、とても熱心に取り組んでいるので、KC にフィードバックができればよい。また、もともと進めていた事業について、少しずつステークホルダーを広げたいということで、川崎市にもお声がけいただいているので、将来的には他の事業者や学校、市民を巻き込めればよい。
- ▶ (委員) このような積極的な企業にも KC に入ってもらいたい。
- ▶ (委員長) このような取組を KC が取り組めるとよい。
- ▶ (委員) KC の理念が広がれば KC の名称が前面になくてもよい。
- ▶ (市) 今回の事業は親和性が高い。個別の取組を別のもので捉えるのではなく、どこで親和性があるのかという視点で取り組みたい。
- ▶ (委員) 協力や協賛として、KC が新しい取組に関わっていることがわかればよい。
- ▶ (委員) スウェーデンでは子どもは両親の子どもではなく社会の子どもであると考え、卒業式もコミュニティで行うために教会で開催している。川崎市では、子どもの貧困の問題や、以前は凄惨な事件もあった。子どもたちへのアプローチとして、今回は「食と暮らし」という狭いところから入るが、最も子育てによい町であるということ伝えていければよい。どのような全体感の中でこの企画を捉

え、その周辺部分にどのような別のテーマを入れていくのかという発想が重要である。

(4) 参加団体について

事務局より、資料4を紹介し、各委員が確認を行った。

(5) かわさきコンパクトの事業計画について

事務局から、資料5-1、資料5-2、資料5-3をもとに、今年度のかわさきコンパクトの事業計画について報告された。委員からは以下の意見があった。

- (委員) 今年度の冊子で紹介する中身は昨年度までのものと同じか。
- (事務局) 昨年度の取組を紹介いただけるようお願いする予定である。
- (委員) 事業者は問題ないかもしれないが、市民活動団体で、環境以外の取組でKCに参加している団体も多く、そのような団体では取組が年度ごとに変わっていないこともあるので、確認方法は気を付けてほしい。
- (委員長) 今までの冊子はいつ書かれたのかわからない情報が掲載されていたので、最新版であることがわかるような冊子にできるとよい。交流会は1ヶ月後に迫っているので、厳しいかと思うが、よい日程を選んでほしい。
- (委員) 7月に予定している交流会で4社のコンパクト企業に協力を打診しているが、うち2社は資源の有効利用がテーマである。関連して、国内で産業廃棄物にしたはずの食品がスーパーに出回ったニュースがあったが、フランスでは発生する食品ロスを低所得者層等の支援を必要とする人たちに提供する法律ができた。国内でも、食品ロスを廃棄物にさせないことがますます必要となってくる。川崎市は、より積極的に取り組んでほしい。
- (市) 食品ロスの削減は市でも減量推進課が取り組んでいる他に、庄司委員長の所属する川崎市地球温暖化防止活動推進センターグリーンコンシューマーグループかわさきでも、温暖化に関連して、積極的に取り組んでいる。食品ロスのテーマは環境だけではなく、コンパクト全体につながるテーマと考える。先ほどお伝えした子どもへのアプローチの中でも伝えたい。
- (委員) 横浜市は商店街と連携して食べ残しをしない消費者を大切にしているキャンペーンに取り組んでいる。自治体ができることはたくさんある。
- (委員) 子ども食堂の話題が日々出ている。関連して、6月28日にエコクロスマッチングがあり、その中で食品ロスの課題に取り組んでいる団体を紹介する。エコクロスマッチングは今年もKC参加団体の中からも、JX エネルギーに協力してもらい、KCの取組を含めて紹介してもらおうことになっている。昨年度来、共催としているので、今年も共催としたいがよいか。
- (一同異議なし)
- (委員) 川崎市として、廃棄物ゼロを目指す都市を目指せるかがポイントである。

世界では「ネット・ポジティブ」という考え方が広まり始めているので、そのようなことを目標に掲げられる都市になれば、環境と住宅が共生する都市として面白くなる。

- (委員) 冊子のイラストは、川崎市のスカイラインにした方がよい。
- (市) 今年度のフォーラムについては、まだ具体的には決まっていないが、日程は2月16・17日での開催が決まっている。これまで末吉委員に講演をお願いしてきたが、市としては今年度も末吉委員にご登壇いただきたいと考えている。
- (末吉委員からは了承を得る)

3 事務連絡

次回については、別途メールで調整することとなった。

4 閉会